

第4章 重点施策 一覧



37ページ～

42・43ページ▶

1

ひとりひとりに寄り添う
佐々モデルのさらなる展開

目指す姿

相談窓口が明確であり、身近なところで気軽に立ち寄れる相談の場、相談できる人がいる。

1 誰一人取り残さない
包括的相談機能の充実



- ① 相談窓口（多世代包括支援センター、社会福祉協議会）の明確化と周知徹底
- ② ケアラーなど相談しづらい方への相談窓口・情報提供等の手法の確立（SNS等）
- ③ 専門機関とつながる多機関連携のシステムづくり

2 社会福祉協議会との連携による「つなぐBANK」を活用した相談支援強化



- ① 食（食ロス）をツールにした多機関連携によるアウトリーチ支援
- ② 官民連携による支援の輪が循環するネットワークづくり（人・場所・資金）

3 地域のイベントやボランティア活動を支える仕組みづくり



- ① ボランティア活動等を通じた社会参加しやすい仕掛けづくり
- ② 多世代に関するボランティア養成・育成
- ③ 活動団体を仲立ちする組織、資金調達等の仕組みづくり

60ページ～

持続可能な体制・取組みに向けた官民連携

目指す姿

安心できる個人情報に関するルールと運用によって、地域内の見守りや助け合いが持続可能となる。

44ページ～

50・51ページ▶

2

多様性を喜んで受け入れる
やさしい町づくり

目指す姿

障がいや生きづらさを持った方にとって、地域の中に居場所があり、活躍できる場がある。

1 多様性を理解し合い、誰もが暮らしやすいまちづくり



- ① イベントや交流を通じた体験的な相互理解の促進
- ② バリアフリー化等を含む物理的環境への配慮の促進
- ③ 特性のある子どもや人の家族が相談できる場づくり

2 障がい者の活躍の場づくり



- ① 障がい就労事業所への優先調達の促進
- ② 社会参加しやすい環境づくりおよび交流の場の拡大

3 多様性に応じた居場所づくり（不登校・ひきこもり支援）



- ① 支援に係る人・場所・資金に関する仕組みづくりの構築
- ② 運営の在り方、学習支援の拡充、社会参加・就労支援等、官民連携による居場所づくりの取組の推進
- ③ 相談場所・窓口の周知徹底と本人や家族を孤立させない体制整備

4 つながることによる多様性を受け入れた地域コミュニティの活性化



- ① 多様性への理解と尊重を目指した「さざまる市場」の継続的発展
- ② 総合福祉センターを中心とした世代や属性を超えた居場所づくり
- ③ 子どもが集まり、大人が活躍する、安心して地域の中で子どもが育つシステムづくり

65ページ

- 3 覚悟ある、お節介の必要性とこれを可能にする取り組みの検討
- 2 地域ポイントでつながる自助・共助のまちづくり
- 1 健診結果からみえる健康状態及び課題分析の必要性の検討

52ページ～

58・59ページ▶

3

楽しみながら自然に健康になるまちづくり

目指す姿

アプリやイベントを活用しながら関係団体とコラボし、自らが、地域のなかで楽しく健康づくりに取り組むことができる

1 商工会や町内会・町内企業とコラボした効果的な事業やイベントの普及啓発



- ① 「歩こーで！（ながさき健康づくりアプリ）」の普及啓発
- ② アプリ登録者数拡大と商工会会員等店舗の協力店登録の促進
- ③ アプリのポイントやチケットを活用し、商工会や町内会、町内企業とコラボ
- ④ 町内会とコラボした地域型の健康づくりの推進

2 多世代で参加できる楽しい！体験型健康イベント



- ① 町内ウォーキングコースを活用したイベントの実施と環境の整備
- ② 関係機関とコラボして楽しめる健康まつりの推進

3 子どもだけでなく親が学び育つ居場所づくり



- ① 子ども達を中心に多世代が健康になる仕組みや居場所づくりの推進
- ② 農業体験施設等を活用した、農福食学連携やイベントの展開

4 関係団体がつながる健康づくり



- ① さざまる市場における健康啓発イベントの実施
- ② 世代・分野を限らず関係団体と連携しての取組
- ③ 医療・介護・健康データからの健康課題の抽出と健康情報の提供
- ④ 地域、医療、職域、ボランティア、生活関連産業等の連携による健康づくりシステムの構築